

令和6年度1学期始業式 式辞

おはようございます。改めまして、新しく与論高校の校長になりました大倉です。生徒の皆さん、よろしく願いますね。

さて、本日、令和6年度が幕を開けました。明日入学する1年生を加えて、今年度の与論高校は生徒数126名でスタートすることになります。新年度の新しい出会いを大切にして、自分を高め、お互いを高め合う令和6年度にしてほしいと思います。

昨年度の始業式で、甲斐、前校長先生は、生徒の皆さんに三つのことについて話しになったようです。一番目に「自分や他者の生命を尊重すること」。これは読んで字の如くですね。二番目に「ワンランク上を目指すこと」。現状の自分に満足することなく、さらなる高みを目指すことに自身の成長があるということ。そして三番目に「凡事徹底」です。ちよつとしたゴミ拾いさえも徹底して行う、メジャーリーガーの大谷選手を例に出してお話ししたようですね。

私はこれらに加え、君たちにあた二つのことを心がけてほしいと思っています。一つは「脳に汗をかいているか？」ということ。「脳」。ここです（頭を指す）。ここに普段から汗をかいているかということ。体を動かせば汗が出てきますよね。同じように脳に思いつきり汗をかかすくらい、じっくりと考える時間を高校生のうちに持つてほしいということです。

例えば箱根駅伝のランナーが襷をつなぐために、必死になってラストスパートしますよね。つないだ後は足に力が入らず、自力では立てないくらいになる選手もいる。でも、そこまでできるのは、それまでの練習の中で、本番のパフォーマンス以上に苦しいトレーニングを自分の体に課してきたからだと思うのです。それくらい思いつきり体に汗をかきながら、自分の力を使い切る経験をするからこそ、本番の走りで自分の限界が伸びていく。皆さんには学習活動や探究活動で、そういう経験を積んでほしいということです。異なる他者との協同学習等は絶対に必要な経験だと思いますが、結局それが生かされるかどうかは、自分一人で机に座り、他人の力を借りずに、自分の頭がクッタクタになるくらい考える、あるいは必要に応じて知識を覚える、そういう経験は高校生の時にこそしておかなければならないと思うのです。

残りの一つが、「自分のルーツに誇りを持つ」ということです。与論島にルーツを持つ自分に誇りを持つて、ということですね。私はこれまでの教師生活の中で、鹿児島市内の全校生徒千人規模の大規模校三校で教師として勤めた経験があります。もちろんこのような学校では、人数が多いですから、体育祭や文化祭の迫力やエネルギーはもの凄いのがあります。しかし、日常の授業等の教育活動については、千人もの生徒が同様に一斉に受けるものですか、珍しさ・貴重さという点ではありふれたものになっってしまうくらいがある。それに対して、本校はどうでしょう。本年度でいえば、126名しか受けられないわけです。他の地域とは明確に異なる自然や文化が色濃く残る、一島に一校しかないこの与論高校で、126名しか受けられない教育コンテンツの方が、千人もの人が均一的に受けるものよりも希少価値があると考えられないでしょうか。それを受けた生徒の皆さんの存在価値そのものも上昇するという発想を皆さんには持つてほしいということです。

皆さんの高校生活が魅力的になるかどうかは、「皆さんが日々の生活や地域の、身近な他者や自分の、これまで気付いていなかった魅力やねうちを発見し、その意味を読み取り、その認識を基にして自分の将来に向けて、いま取り組んでいくこと」なのです。島の外から島を眺める視点を持てば、同じ日本人でもこの島で育った自分達がどれほどユニークな存在であるかがわかると思います。ですから、家庭や学校だけに閉じこもり、家族や友人・先生達とだけ接するのではなく、外の世界に飛び出して、新たな人との出会いも積極的に求めてほしいと思います。そういう機会を学校からも提供しますし、与論町や民間のイベント等も有効に活用してほしいと思います。

「自分のルーツに誇りを」持って、「脳に思いっきり汗をかいて」ください。そうしたら、自分が予想もしなかったワクワクする展開が拓けてくるかもしれませんよ。だからこそ、人生は面白い。これから長い人生を歩む皆さんには、そういうポジティブでチャレンジングな発想を持ってほしいと思います。これこそ「予測が困難な時代を主体的に生き抜く力」の大切なエッセンスなのです。令和6年度の学校生活を、自分たちから能動的に、楽しく充実したものにしていきましょう。以上で式辞といたします。